

会 議 記 録

会 議 名	平成 29 年度第 2 回矢板市総合教育会議
開催日時	平成 29 年 1 1 月 2 1 日（火） 15 : 00
場 所	矢板市生涯学習館 研修室（2）
出席者	<p>【構成員】 齋藤市長 教育委員会 村上教育長、福田教育長職務代理者 矢板委員、石塚委員、岡委員</p> <p>【出席依頼職員】 教育総務課 高沢部長兼課長、山崎課長補佐、井上指導主事、 小野指導主事、森本指導主事 生涯学習課 大谷津課長、齋藤班長、関社会教育主事 矢板公民館 田城館長 泉公民館 塚原館長 片岡公民館 塚原館長</p> <p>【事務局】 総合政策部 横塚部長 総合政策課 室井課長、星課長補佐、齋藤副主幹</p>
傍聴者	なし
<p>開会 15 : 00 （進行：総合政策課長）</p> <p>1 開会 【総合政策課長】 開会前に皆様にご案内を申し上げます。本日の会議は公開で行っておりますので、よろしくお願いいたします。 ただ今から、平成 29 年度 第 2 回矢板市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>2 あいさつ 【総合政策課長】 はじめに、齋藤市長よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>【齋藤市長】 それでは、ごあいさつを申し上げます。矢板市教育委員会の教育委員の皆様におかれましては、本日は、公私ともにお忙しいところ、本年度第 2 回目となります矢板市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様におかれましては日頃から矢板市内の子どもたちの教育や生涯学習等の推進のために大変なご尽力をいただいていることに対しまして、この場をお借りしまして改めて感謝を申し上げたいと思います。さて、総合教育会議でございますが、平成 27 年 4 月に改正されました、地方教育行政法に基づくもので、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の課題</p>	

や目指す姿等を共有しながら、教育行政を推進していくことを目的としております。本年度につきましては、去る6月22日に第1回の会議を開催いたしまして、矢板市教育大綱の目標1「たくましく生きる力をつける」をテーマとしたほか、本年3月に本市が策定いたしました矢板市公共施設等総合管理計画につきましても、さまざまなご意見をいただいたところです。本日も前回同様、教育委員会定例会に続いての会議ということで、委員の皆様お疲れのことと思います、また、時間も限られておりますが、忌憚のないご意見ご提言を頂戴し、議論をさせていただくことで、市長部局との間で問題意識を共有させていただいた上で、さまざまな施策に反映をしていければと考えております。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【総合政策課長】

ありがとうございました。

次に、市教育委員会の村上教育長にごあいさつをいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【村上教育長】

改めまして、こんにちは。第2回目の総合教育会議ということで、先程、市長のごあいさつにありましたとおり、教育委員会としても市長部局と協力しながらいろいろな施策を進めていきたいと思っております。矢板市の教育については、矢板市の子どもたち、日々努力をして頑張っていますし、生涯学習関係についても積極的に推進されていると感じているところです。今日は、市長とともに矢板市の教育について考えていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【総合政策課長】

ありがとうございました。

続きまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

次第、出席者名簿、席次表、矢板市総合教育会議設置要綱、矢板市教育大綱、矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略、以上となっております。不足等がありましたら、事務局へお申し付けください。また、別途「矢板市生涯学習推進計画（四期計画）」をお持ちいただいているかと思いますが、お持ちでない方はお申し付けください。

3 議題

【総合政策課長】

それでは、これより議題に入らせていただきます。

本会議は、矢板市総合教育会議設置要綱第3条の規定によりまして、市長が招集することになっておりますので、ここからの議事の進行につきましては市長にお願いしたいと思います。よろしく、お願いいたします。

【市長】

それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思っております。

本日の議題は「総合戦略の実現に向けた教育施策との連携について」であります。まず、議題の趣旨と矢板市で昨年の1月に策定いたしました矢板市版のまち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

それでは、事務局からご説明いたします。

まず、本日ご用意いたしました議題の趣旨につきましてご説明いたします。お手元にあります、矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略をご用意ください。

矢板市では、今後の人口予測や人口減少社会に対して本市が抱える問題や課題を明確にした「矢板市人口ビジョン」と、人口ビジョンを踏まえた将来の目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成28年1月に策定いたしました。

総合戦略の4ページをご覧ください。ここでは総合戦略の基本目標の①に人口ビジョンからの課題認識として記載がありますが、2段落目をご覧ください。

現在、矢板市における人口減少の要因としては、いくつかありますが、特に進学や就職などを機とした若い世代の市外への転出超過が挙げられております。また、地域への愛着をはぐくむ教育や、市の魅力を生かして交流人口を定住人口へとつなげる仕組みが求められております。

そのような中、創生総合戦略では5ページにありますように、人口減少社会への克服戦略と適応戦略の2つを合わせて実施するとともに、4つの基本目標を設定しているところです。

次に7ページをご覧ください。こちらには、基本目標ごとの施策が体系化されております。その中でも、人口減少克服戦略として「来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる」といった基本目標を掲げておりますが、交流人口を増やす、定住人口を増やす、戻り人口（Uターン）を増やす、流出人口を抑える、などの基本的方向に対する具体的な施策を展開しております。

この、基本目標「来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる」について詳しく説明いたします。次に、12ページをご覧ください。

12ページから、より具体的に記載がありまして、施策のねらいや重要業績評価指標の設定、ページをめくりまして14ページからは更に具体的な取り組み例が記載されております。

このようなことから、矢板市の人口減少時代に向けた対策としては、まず、子どもたちにふるさとに対する愛着と誇りを持ってもらうこと、また、市内に雇用の場を確保するための企業誘致、さらには定住促進策などに取り組むことで、若い世代を市外に流出させない、あるいは一度矢板市を離れてもUターンしやすい環境を整えることが必要であると考えております。

加えまして、このような取組により矢板市で暮らしていく、更には企業活動を行っていくなかで、地域の一員として地域社会に貢献出来ることがふるさとに対する愛着と誇りを一層深めるものになり、持続可能な地域づくりを進めるうえでも市民が地域社会に参画し貢献出来るような仕組みづくりが必要であると考えております。

以上のことから、本日の議題の趣旨といたしましては、矢板市が人口減少社会を克服していくという目標の中で、市民が地域社会に参加するといった観点から、教育大綱の基本目標3にあります「学びの成果を地域社会に還元する」に関連した取り組みを中心に、現在取り組んでいる事業や課題をご説明した後、今後求められる取り組みについて、さらには教育委員会と市長部局が連携して行うべき取り組みなどについてご議論いただければと思います。

【市長】

ただ今事務局から本日の議題の趣旨と矢板市版の総合戦略について説明がありました。

ただ今の説明の中で、矢板市教育大綱の基本目標3「学びの成果を地域社会に還元する」に関連した取り組みについて、現在取り組んでいる事業や課題を説明するとありましたの

で、続けて説明をお願いします。

【生涯学習課長】

矢板市教育大綱の目標3「学びの成果を地域社会に還元する」につきまして、説明させていただきます。資料といたしましては、矢板市生涯学習推進計画4期計画を基に説明させていただきます。

まず、「地域コミュニティ活動を支援する」でございますが、資料の67・68ページをご覧ください。

泉公民館における泉地区むらづくり事業を始め、片岡公民館に事務局を置きます片岡コミュニティ推進協議会の活動支援ほか、生涯学習課において、目標2にも関連しますが、地域コミュニティ推進事業などを実施しております。

地域コミュニティ推進事業におきましては、平成20年度から始め、毎年希望する行政区を募集し、活動の支援を行ってまいりました。今年度までに25の行政区が、それぞれ作成した活性化プランの下、地域の課題解決や住民交流のための活動に取り組んでいただき、地域の活性化につなげていただいております。

次に、「地域のリーダーなど、人材育成する」でございます。資料は52・53ページでございます。

開始から10年以上にわたって実施しております矢板武塾及び、ふるさと創年大学等があります。

矢板武塾におきましては、矢板の礎を築いた「矢板武」の精神を受け継いで「現代のまちづくり」を学び・考え・実践する塾でございます。今年度で、14回目になりますが、前年度から「高校生の居場所づくり」をテーマに学んでおり、今年度は、高校生を限定に市内3つの高校の1・2年生、11名の方に参加をいただいております。今後、今年度の塾生が中心となって団体を立ち上げ、来年度には、何回かの高校生の居場所の運営の施行を経て、平成31年度から、本格的に「高校生の居場所」の運営を開始する予定となっております。

続きまして、ふるさと創年大学においては、毎年10回程度講座を開催しておりますが、そのうちの2回は区長会の研修も兼ね、合同で開催しております。まちづくりに関する講義が主ですが、創年大学受講生と区長の共通理解を図ることで、同じ方向を向いたまちづくりの創造を期待しております。

続きまして、「世代間の交流を進める」についてでございますが、72・73ページをご覧ください。

先ほど説明いたしました「地域コミュニティ推進事業」にも重なるところはありますが、ここでは「心の教育推進事業」についてご説明いたします。

地域の大人と子どもが交流を深め、地域活動への参画と社会性を身に付け、心を豊かにするための事業で、子ども会の枠組みにとらわれない、体験活動に子どもたちが参画する貴重な機会となっております。平成10年度から実施し、今年度までに42の行政区で実施しております。

また、地域活動への参加記録カード、通称ふれあいカードと呼んでおりますが、を小中学生に配布しております。

地域行事やボランティア活動に参画した際に、主催者などがカードに押印し、スタンプのたまったカードと引き換えに、ともなりくんグッズ等を渡しております。

今年度は20枚ほど交換を行っております。必ずしも多い数字ではありませんが、交換せずにカードを何枚もためているという声も聞いておりますので、表面上は見えませんが、活用は図られているものと考えております。今後も継続して活用が図られるよう、周

知にも努力して参りたいと考えております。

続きまして4つ目の、「まちづくり関連グループや団体を支援する」についてでございますが、65ページをご覧ください。

現在、矢板市内におきましては、様々なボランティア団体や学習グループ、自主サークルなどが地域や学校において、「まちづくり」となる活動を行っております。

特に先程ご説明いたしました、ふるさと創年大学の受講生においては、受講後に「創年大学ぶらぶらクラブ」というボランティア団体を早々に立ち上げております。

受講生のうち大半が「創年大学ぶらぶらクラブ」に参加し、クラブの名前どおり、できる範囲でのボランティア活動に取り組んでおります。

もともと「ふるさと創年大学」の受講生は学習活動に積極的に取り組み、知識や技術・技能などを磨いている方や、職業で身に付けたすぐれた知識や技術・技能を持つ方が多いため、植木の剪定、川崎城跡や内川の草刈りをはじめ、幼稚園や小学校に出向き、竹とんぼ教室を行うなど、様々なボランティア活動をしております。

毎年、11月3日に生涯学習館前で開催している「秋祭りを楽しもう」においては、ぶらぶらクラブのほか、婦人会、男女共同参画啓発活動団体、グループあい、ちびっこ広場実行委員会、市子ども会連合会、ワーカーズコープりんごの木が一緒になって実施しているもので、毎年多くの市民に楽しんでもらっております。

現役世代の参加者が少ないこともあり、団体の継続が厳しいという課題もございます。事務局ではこれらの団体を支え、また、人材発掘については、更に広くアンテナを張り、協同のまちづくりに取り組んで参ります。

説明は、以上でございます。

【市長】

ただ今、事務局と生涯学習課から説明がありました。

委員の皆様から、ご意見等をお伺いしたいと思います。

今回のテーマは、「総合戦略の実現に向けた教育施策との連携について」ということで、非常に間口が広いテーマであると思っておりますが、総合戦略というのは元々、本格的な人口減少社会の到来をどう克服していくか、又はどう適応していくかということで、取り組んでいるものです。そのような中で、人口減少社会を克服していくためには、就職や結婚等をきっかけに矢板を離れてしまいがちな若い世代の方たちをどうやって矢板に引き留めるのか、さらに魅力あるまちにして、周辺の市町で生活されている方をどうやって矢板に呼び込んでいくかということも併せて必要になってくると思っております。そういった中で、教育大綱の基本目標3「学びの成果を地域社会に還元する」でございますが、私見ですが、矢板市内の中学生は、地域の活動に積極的に参加してくれていると常々思っております。10月15日、花火大会の翌日、多くの矢板中学校の生徒さんが会場周辺に集まっていただきまして、一生懸命後片付けをしてくださいました。また、泉中学校につきましては、長年の活動により「福祉のこころ推進校」に認定され、11月の福祉まつりの席上で認定証が授与されました。先日の片岡コミュニティ文化祭で、片岡中学校の生徒さんが、有力な出展団体の一つとして活躍されていたことが、大変印象に残っているところです。教育長にお聞きしますが、このような活動の評価はどのようにとらえていますか。

【村上教育長】

矢板市の中学生は、ボランティアを、各学校で活躍の場所を泉・矢板・片岡とそれぞれ設定し実施しています。また、矢板市全体のイベントでは、3中学校が集まり活動しています。最近の中学生はボランティアをしようという気持ちが非常に高くなってきておりま

して、その理由は、一つは、市でも進めています。外に出て体験をしよう、体験する中で、いろんなことを学んでいこうということが、学校にもよく理解されていて、それが、先生方からもアプローチがあって、生徒会や色々な団体で受け入れようとしているのではないかと、もう一つは別な観点でいうと、高校入試とか大学入試等で、ボランティアが推奨されているという意識も中学生にはあるという面もあります。ただ、全体的にいうと大きな町よりは、矢板市は中学校の生徒の活動はかなり活発ではないかと思っております。

【市長】

福田教育長職務代理者には、先日、福祉まつりで社会福祉協議会の会長として泉中学校に認定証をお渡しいただいたのですが、福祉の観点からどうでしょうか。

【福田教育長職務代理者】

地域についてですが、最近、伝統行事とかみんなで集まろうという風潮がなくなりまして、自分だけよければいいという利己主義的な傾向にあるように感じます。そうするとそのまちは住みにくいまちになってしまうわけです。それを解消するために、子どもの内から地域みんなでお互い助け合っていこうという精神は伸ばしていかななくてはならないと思います。表に出て地域の方と触れ合っていくのは非常に大事だと思います。

【市長】

ありがとうございました。矢板委員の地元の豊田小学校の運動会で、毎回、豊田小学校を卒業した中学生がお手伝いに来て、たぶんボランティアであると思うのですが、そういった、地域のつながりなどは、東部地区はあるという感じですか。

【矢板委員】

全体的にはどうなのかというのは、分かりませんが、運動会の時には、市長がおっしゃったように中学生が来てくれて、いろいろな手伝いをしてくれます。テープを持ったり、中学生が出場する種目もありますし、高校生も来てお茶出しをしてくれますし、そういう意味では、学校が、地域にあるというのは素晴らしいことだなと思います。もし、なくなったら寂しいという気持ちはあります。

【市長】

まずは、お三方のご意見を伺いましたが、中学生についてご意見を伺いましたけれど、地域社会につながりを持っていこうとか、地域社会に貢献をしていこうというような気持ちというのは、これまでの取組・施策の成果があって、矢板市の中学生はしっかりしていると思いますが、それを矢板で定住してもらって、矢板で仕事を得て、矢板で結婚して、矢板で子育てをしてもらうところにどうやって結びつけていくのが課題であると思います。そのような中で、私の子どものころはなかったもので、矢板市役所にも来ていただいています。今の中学生はキャリア・スタート・ウィーク、職業体験をされていますが、石塚委員や岡委員は、そのようなこと（職業体験）をしたことはありますか。

【岡委員】

ありました。ただし、全員ではなくて希望者だけと記憶しています。

【市長】

ちなみに岡委員は、そこ（職業体験）に行かれて、医療福祉の専門職になろうと思われ

たわけですか。

【岡委員】

中学生の時に、なんとなくそれ（医療福祉関係の進路）があったから進んだわけで、キャリア・スタート・ウィークはあまり関係ありませんが、どちらかという、福祉関係の係りは、やしお苑に慰問し、体育の授業で習ったダンスを披露したことぐらいです。

中学生のボランティア活動ですが、ふれあいカードのスタンプをためるためにボランティアをしている子も実際いるとは思いますが、ボランティア活動に参加することで、何かにつながればいいのかと思いますが、目的がポイントをためることになってしまうと（市が）意図しているところと違ってしまうと思います。

【市長】

教育長、その辺はどうなのでしょう。ふれあいカードの評価といいますか。ただ、これは子どもだけに限ったことではなくて、矢板市では高齢者にはお元気ポイントであったり、他の市ですが健康マイレージであったり、同じようにポイントでやる気を出させる取組は外にもありますが。

【教育長】

小学生は、ポイントをためるのが楽しいからボランティア等を実施する傾向にあるようですが、中学生はそれよりもボランティアが自分のためになっていると考え、いろいろなことに貢献できることに楽しみを見出し、1回だけでなく複数回の参加が見られます。それが、地域とつながるといふところまでは十分いっていないという子もいるようですが、イベントで創年大学の方々とサンマの焼き方の体験を通じて大人とのふれあいはあるようです。大人とのふれあいが、地域とのつながりまでいけばよいと思います。そこまできなくても、矢板の子ども達は、体験の素晴らしさを知っているのではないかと思います。

【市長】

石塚委員、ご自身が子どもの頃と比べて、子どもと地域社会の結びつきというのはどうでしょうか。

【石塚委員】

我々が子どもの頃は、そういったものに参加するということはあまりなかったような気がします。今は、そういったふれあう場が多いので、参加する子どもが多いと思います。

ボランティアをしている子と話してみると、大変素直でいい子どもが多いので、これからも積極的に実施していくべきと思います。

【福田教育長職務代理者】

私の経験からいいますと、子どもたちが表に出るといふのは、楽しみがないと駄目ですね。私がいる泉地区は、ほぼ毎月お祭りみたいなことをやっておりまして、そのときにポイントカード（ふれあいカード）にハンコを押しますが、子どもたちはポイントが目的ではなくて、集まって何かをもらおうと何かいいことをやった気になるのでしょう。

私の個人的な考えですが、生涯学習の原点は、皆で同じこと何かやって、みんなで同じ釜の飯を食べて、同じ瓶の酒を飲むというのが私の信条で、そうやってやっています。

子ども達がボランティアをした後、一緒にご飯を食べるとか何か楽しみを与えるという

ようなことも必要だと思います。

【市長】

我々が子どもの頃は、地域社会のコミュニティがしっかりしていたので、行政でいろいろ気を遣わなくても、例えば乙畑にしても矢板にしてもお祭りとか育成会の集まりがあれば、みんなで参加していました。地域の人と人との絆みたいなものが希薄になっていく中では、少し学校の力をお借りしながら、人と人のつながりを結び直す努力も必要だと感じています。

中学生についてお話をさせていただきましたが、次に高校生についてですが、先ほど生涯学習課長から説明がありましたが、11月18日に矢板武塾の第14期の終了式がございました。矢板武塾は矢板を思っのまちづくり塾ですが、本年度については、矢板市内高校が3高あって、市外から毎日多くの高校生が通ってきてくれているということで、参加者を高校生に限定して、高校生の目線で高校生の居場所づくりについて、いろいろ研究をしていただいて、その成果を発表してもらったところです。昨年度も同じ取組をさせていただいたのですが、本年度については、高校生限定で市内の3校から高校生総勢11名に参加をしてもらいまして、半年程度、宇都宮大学の陣内先生にご指導をいただきまして、取組んでまいりました。特に矢板高校のみなさんは、総合選択制高校ということで、いろいろな学科があるわけですが、それぞれ強みを生かして、道の駅のメニュー作りに栄養食料科が参加してくれたり、機会技術研究部のみなさんが、片岡軽トラ市でミニSLを走らせてくれたり、今度の（駅前）イルミネーションでは、電子課の生徒さんが協力してくれています。いわゆる交流人口に分類される市外から通ってくる高校生の力を借りてまちづくりをしていければと思っています。11月18日に矢板武塾の発表について、教育長はどのように思われましたか。

【教育長】

中学生に比べると高校生はトータル的にもものごとを考えられる世代になってきています。中学生はボランティアに参加することで、学びと満足感を得ることが目的な子どもが多いようです。先日（矢板武塾の）の発表会を聞かせていただくと、トータルでまちはどうあって、高校生はどのような位置づけなのかということが分かってきているので、地域のリーダーになる一歩手前までいけるのではないかという感じはしたところです。是非、今回の試みも地域の人たちをうまく巻き込んだり、大人のリーダー的な人の援助を受けながら、取組んでいくと、まちづくり地域づくりについて、高校生たちも楽しんでできるし、地域の人たちにも良い試みと評価されるのではないかと思います。

【市長】

高校生の提案をどのように受け止めていくか、重要なものと考えています。

福田教育長職務代理者にお聞きしますが、福祉のこころ推進校では、矢板高校がいち早く取り組んでいます。中学生と高校生の地域貢献について違いとかお感じになっていませんか。

【福田教育長職務代理者】

実は、高校生の活動はあまり存じ上げていないのですが、やはり中学生は、福祉というものに興味を持っていてくれていて、中には介護ボランティアの方まで入ってくれてこうとする子どもたちいますけれど、残念ながら免許はないので実地研修はできませんが、弱いものに対して自分たちが手を差し伸べようという意識はかなりあるようです。

【市長】

そういった高校生ぐらいのタイミングで矢板市にしっかり愛着を持ってもらって、矢板市内で仕事を心得、矢板市に居住してもらえればと思っております。

【福田教育長職務代理者】

少し違うかもしれませんが、市長が県職員の頃、矢板武塾に参加されまして、例えば東京の会社に入社しても電車で通勤せずに自宅にいて勤務できる、そういうものを作りたいとおっしゃいましたけれど、非常にいいと思います。地域に定住するという一つの方法ですので、是非そちらの方も進めていただきたいと思います。

【市長】

私も矢板武塾の6期生で、今から8年ぐらい前になりますけれど、サテライトオフィスとかリゾートオフィスを提案させていただいておりますが、例えば勤め先が東京であっても、矢板で住まいを構えて、自然豊かな環境で生活してもらいながら、仕事は時折東京でというようなライフスタイルがあっても良いのではないかと、図らずも安倍政権で働き方改革といっている中で、一つの方向性として打ち出されているものだと思います。

それでは、具体的なお話を聞かせていただきたいと思いますのですが、どうでしょう石塚委員、お子さんが市外に進学されて、将来はどのように考えているのでしょうか。

【石塚委員】

基本的には、帰ってきてくれればありがたいですね。

【市長】

何としても帰って欲しい、というわけにはいかないのですね。

【石塚委員】

そうですね、帰ってきてくれればありがたいですね。私、飲食業を経営してまして、私がやりたいことを親にやらせてもらっているのです、子どもにもやりたいことをやらせたいというのが本当のところなんです。ただ、矢板に来てでもできるような仕事だったら、是非、矢板に戻って活躍してもらうのが一番いいと思います。

【市長】

岡委員はどうでしょう。お子さん、1人ぐらいは何とか矢板に住んでいただくとか。

【岡委員】

それはありますけどね。

矢板武塾にくる意識の高い子たちは、働く場所を求める時期になったときに、逆に矢板ではなくて市外に出て行ってしまわないのかなという思いもあるのですけれども、働くことになり矢板に定着するときに、矢板のどこに魅力を感じてくれるかと、そこを大人が作ってあげなくてはいけないのかなと思います。

【市長】

よく、矢板は働く場所がないというお話を伺うのですが、有効求人倍率などはハローワーク矢板の管内は1倍を超えていて、少し前と比較するとかなり高い水準で推移していま

すし、矢板市内の企業にお聞きするとどこも人手が足りないと言います。矢板市役所も毎年職員を採用していますが、そんなに（申込者が）多いということもない状況です。市長の立場、雇用施策を担当する立場からいうと働く場所はある程度あると思うのですが、やはり、働く場所はない、選択肢の中に入らないということなのかもしれないのですが。

【岡委員】

外がよく見えてしまうのかもしれませんが。

【市長】

東京と同じように、バラエティに富んだ職場が提供できるかという点と難しいですね。どうですか矢板委員、矢板はやはり仕事がないという話を聞きますか。

【矢板委員】

そうですね、私の寺でも檀家さんが減ってくるような気がしています。東京で勤めている人が矢板に来て仕事がないということを言っています。

矢板は、農業地域ですよ。農業関係は続けていった方がいいと思っています。農業は、作物づくりなど体験が重要だと思います。森林組合で、時々市外から若い人を呼んで林業体験などを実施していると思いますが、それがきっかけになることがあるのではないかと思います。

【市長】

たしかに、農業・林業は、矢板からなくなる仕事だと思います。

それと医療とか福祉は、なくてはならない業種だと思いますが、中々、介護現場は人材の確保が大変だというお話はお聞きしますが。

【岡委員】

矢板の（介護）施設は、在宅が充実していない分、多いと思います。福祉とかに興味を持った方たちが就職する場所はあると思います。たしかに、中々定着しない状況ですが。

【市長】

そのような中で、こうすればという案はあるのでしょうか。矢板の医療・介護・福祉の現場で仕事してみたいと思わせるきっかけには、やはり、体験ということになるのでしょうか。

【岡委員】

矢板高校に福祉課の子が、まず、近場で働いてくれるといいのですが。今のところ、特養に限定されてしまいますが。

塩谷病院に看護学校もありますが、そこに就職してくれればいいのですが、矢板の周りに病院が多いので、そこに流れてしまいます。

【市長】

石塚委員、雇用の場以外で、何か若者を引き付ける・若者を引き留めるという要素は何になりますか。生活環境とか。例えばフットボールセンターみたいなスポーツ施設はポイントになりますか。

【石塚委員】

一つの宣伝効果にはなると思いますけれども、何とも言えません。

私の友人で埼玉の者がいますが、自然に囲まれたところに住みたいと言っていたので、矢板に住めと進めたのですが関谷に住みました。関谷でも本当に何もないところです。矢板も自然に恵まれたところなので、林業も含めて何か活用できないかなと思います。

【岡委員】

商業施設を充実していただけると子育て世代のママたちはいいのかなと思います。

お婿さんを迎える場合のことですが、高校を卒業して地元で働くというのは、もしかしたら、比較的就職しやすいかもしれないのですが、県外からUターンとかで、戻ってきたときに、福祉や医療というのは場所を選ばない職業ですけれども、今までの職業をそのまま矢板で同じように続けたいという場合は職がない。旦那さんを連れて戻ってきたくても職がないということは、ときどき聞いたことがあります。

【市長】

雇用機会の確保というのは、教育委員会というよりは、私たち市長部局で国・県・ハローワークとしっかり連携しながら取り組んでいかななくてはならないと思います。

農業後継者にしても林業従事者にしても非常に足りないということがいわれています。農業後継者については、高齢化が進んで、何とかしないと緑豊かな農地を守れないといところで、しっかり力を入れていかななくてはならないところですし、また、企業誘致についても、矢板南産業団地の企業誘致を始めとして、業種問わずしっかり活動していかなければと思っています。矢板南産業団地も進出する企業も増えてきておりますが、中々矢板市も頑張っているねとか、これで矢板市も雇用も増えて人口が増えるねと言ってくれる人がいないのですね。その辺が、雇用のミスマッチとかあるのかなと思います。

【福田教育長職務代理者】

交流人口についてですが、先月、地域おこし協力隊の高橋さんが、泉に東京の学生を50人ぐらい連れてきてまして、田舎を作ろう、イナツクというイベントが実施されまして、若者が矢板に興味を持ってくれたわけです。学生さんに話を聞くと、たまに来るのがいいと言うのですよ、定住となるとどうかなということにして、そういう人たちをどうやって定住させるかということなのですけれども、住みよいまちというものがありますよね、企業があって、スーパーがあって、デパートがあっても住みにくいまちというのはあると思うのですよ、最終的には人の問題だと思います。お互い助け合うまちだとか、そういった心優しい人づくりとかは、これからの教育委員会の責務になるのですかね。

また、同時に学校の学力も上げていかないと、例えば、都会の人が矢板市に土地があつて買おうと思っても、その地区の学校の学力が低いという噂がたってしまうと来ないですから、そういう面では、学力を底上げして行って、その中学校にいけば進学率が高いという評判をつくっていくのが、我々の仕事なのでしょうね。

【教育長】

リーダーづくりとか人材づくりというのは、教育の役割だと思うのですけれども、地域も人材づくりリーダーづくりが必要で、具体的な例でいうと、泉地区でヒルクライムのときに地域の人がリーダーシップをとって、自転車好きな人を集めて前夜祭が開催されましたが、もう少し若年層もリーダーになってやっていただければと思います。今、上の年齢がリーダーシップをとっていますが、若年層の人にもイベントなどでリーダーシップを発

揮するような機会をたくさん作ってあげないと若者は来ないのかなと思います。若者が活躍できる場所づくりをすれば、田舎に帰ろうという気持ちもおきることもあります。職業も大切ですが、お祭りが盛んな地域では、お祭りが生活の中心で仕事は二の次という人もいるくらいで、お祭りのためにその地域に住むという生き方をする人もいます。矢板市の場合は、リーダーの年齢層が高いので、30代とか40代がリーダーシップをとるようなイベントなどが増えれば、それを見る小学生、中学生、高校生が将来やってみたいなというつながりがあれば面白いのかなと思います。具体例はないのですが、ヒルクライムなどは若年層に（リーダーを）持っていけばよいのかなと思います。

【福田教育長職務代理者】

ヒルクライムが泉地区のイベントということですが、そうではないのです。何年前、市職員の方から提案があって、その話に私たちが賛同して開催しているのです。役所の方から提案されて成功している例です。

【教育長】

役所提案であっても、地域、若年層に伝播していくのが一番いいやり方なのかなと思います。

【福田教育長職務代理者】

そうですね。どんどん（市職員に）表に出てもらって提案していただければ、我々はありがたいですね。

【市長】

片岡地区は、石塚委員世代が頑張ってお祭りなどを開催しているイメージがありますが、どうでしょうか。

【石塚委員】

地域の親御さんは私たちの年代の人が多いので、まとまりやすいのですが、片岡地区は若手が出ていく場がほとんどなかったのので、協力することがありませんでした。

このところ、自転車（レース）や軽トラ市など、そういった若手が活躍できる場所が増えてきたので、人も集まりますし、団結力も生まれてきたような気がします。

【市長】

そういうお父さんお母さんの背中を中高生は見ていますかね。

【石塚委員】

見ていると思います。

【福田教育長職務代理者】

人づくりという観点でいいますと、毎年4月に配っている冊子「まなび」、素晴らしい内容なのですが、各課からの案内だけではなくて、地域に「この講座はどうですか。」と売り込んでもらおうと、地域の方々も考えて、それが人をつくることになると思います。

【市長】

はい、検討させていただきます。

話を戻すようですが、どうにか中高生と地域社会のつながりを作らないと、若者のUタ

ーンとかが望めないのかなと思います。

【福田教育長職務代理者】

自分たちのまちは自分たちで作ろうという流れが大きくなってくれば、そのまちは、自然と良くなっていくのではないですかね。そのためには、我々も頑張っ、職員さんにもあと少し汗を流していただく必要もあるのですが。結果としてまちが良くなれば人は来るだろうと信じています。企業がなかったら、さくら市とか宇都宮市に誘致してもらって、そこに通えばいいと思います。

【市長】

今、福田委員からお話がありましたけれど、矢板は宇都宮の通勤圏だと思いますが、さくら市に家を建ててお住まいになる傾向があります。良好な生活環境があれば、人口増は望めないにしても、流出を抑え、矢板市で子育てをしようとする気にはなるのではないかと思います。

【福田教育長職務代理者】

ただ、人口が増えることは良いことだとおもいますが、コンパクトシティの考えからすると、どこに住んでいただくかも重要になってきます。

【市長】

そうですね。

今回、冒頭、私がターゲットを若者に絞らせていただきましたが、若者だけではなくて、ご年配の方の創年大学やそのOBの組織のぶらぶらクラブなどについて、シニア層の地域活性化については、何かご意見はございますか。

【福田教育長職務代理者】

シニアというのは、50代ですか。60代ですか。

【市長】

リタイアの人ということではどうでしょう。リタイア組の方がふるさと創年大学に数多く参加されていると思います。

【福田教育長職務代理者】

例えば、定年後の方が、別の地域から矢板市に定住されるとしても、税金は落ちないですけど、逆に福祉と介護にかかる出費というのは莫大なものになるのではないですか。

シニア世代の方が、転入されると矢板市の財政は厳しくなるのではないかと気もします。

【市長】

何とも言えませんが、そうではないという捉え方もあります。

ふるさと創年大学に参加されている方をみると、元々矢板市の出身ではなくて、仕事の関係で矢板市に転勤して、そういった方の方が地域のしがらみみたいなものを意識されなくて、積極的にご発言されたり行動されたりと、大変ありがたいなと思っております。

【福田教育長職務代理者】

まちづくりの面ではよいのだけれど、財政面では難しい問題もあります。別荘地にシニ

ア世代を都会から呼び込み財政状況が厳しくなった町もあるようです。
ある程度、若い人を呼び込まなくてはならないと思います。

【市長】

若い人たちを呼び込むためには、市長部局と教育委員会部局力を合わせて、何か一つできないかと思うのですが。せっかくの総合教育会議の場でございますので、何かありませんか。

【福田教育長職務代理者】

市長がおっしゃる子や孫が帰ってくるまちというのは、子や孫が帰りたくなるまちということですね。学校としてできるのは、ふるさと愛着教育になりますかね。

【教育長】

教育環境の充実ですかね。かつて、私が宇都宮で勤めていた学校は、栃木県で初めてのオープンスペースのある学校で、外の花壇も整備が行き届き、中も外も素敵と思われた学校でした。そこに通う子どもたちも比較的優秀で、その学校に通うために学区内に家を求めた家族もいたようです。その学校に通うためにその学区内に住みたいと思わせるような学校づくりを検討するのも一つの方法だと私は思うのですが、お母さんの的にはどうですか。

【岡委員】

整備が行き届き、きれいな学校であればそう思うかもしれません。

学校以外のことですが、ともなり学習教室などで、親御さんが忙しく送迎できないので参加できなかったということがありました。例えば、市のバスで送迎してくれるとかできればよかったと思いますし、習い事とか通わせるのに困っている親は結構多くて、地域の方たちと連携ができれば良いのかなと思いました。

【市長】

ファミリーサポートセンターなどは、使い勝手が良くないということですか。

【岡委員】

そうなんですよ。どこの市でも保護者は言っていて、少し値段も張るということもありますし、学校の後、預けるとなると、その人の家庭であずけることになりますよね。それが基本ですけど、そうではなくて、ちょっとしたことで、ここを手伝って欲しいというところに行きつくまでが難しい。何となく使いづらくて、定着していないのもその辺が理由なんですかね。

【市長】

お子さんのニーズだけではなく、親御さんのニーズのことも考えなくてはいけないですね。

【教育長】

そういった、問題が解決されれば、ともなり学習教室などに来る子も多くなると思います。

【岡委員】

ともなり学習教室なども、土日開催の場合は部活動がある子は行けない子もいます。うちの子も行かせてあげたかったが、親の送迎が必要となるとそれは出来ない。自分で自転車で行くとなれば良かったのですが。

【教育長】

安全上の問題があるのでそうになっているわけです。

塾の先生と連携して始めた事業ですが、参加人数が少ない状況です。参加者が多くなり、矢板はそのようなことを実施しているということが定着すればよいのですが。

【岡委員】

先生方が移動教室みたいに地域を回っていただくわけにはいきませんか。例えば、自治公民館であれば、通うことができるのですが。

【教育長】

今のところ難しいですが、来年度ぐらいから大学生に先生になってもらい、事業の拡充できればと思っています。

【岡委員】

大学生となると、どこの大学生になりますか。

【教育長】

宇都宮市内の大学に通う学生を考えています。県北から通う学生に矢板で途中下車していただければどうかと、塾の先生だけではなくて、学生が講師となることで、開催日が増加すれば、事業の拡充ができると考えています。

【福田教育長職務代理者】

何年前も、大学生を学習支援の講師にという話がありましたが、その時に、市職員で教員免許を持っている方に講師をお願いでないかという意見が出ました。

【市長】

教員免許を持っている者が、どれぐらいいるかは分かりませんが、職員を減らしている中で、少し難しいです。

【教育長】

教員を目指している学生であれば、参加を見込めるのではないかと考えています。

【市長】

学力向上というのは、お子さんのためだけではなくて、定住人口を増やしていく上でも、大きなセールスポイントであると思います。また、教育委員会の教育施策のみならず、定住促進のためには、子育て環境が整備されているとか、共働き夫婦にやさしいまちとか、そのようなことをPRしていくこと、その積み重ねが、矢板の人口を維持していく、増やしていく、そういったきっかけになっていくのかというのを皆さんのお話を伺って感じたところがございます。市長部局としては、しっかりと雇用の場を確保する。生活環境の充実強化を図ることをしっかりと努めさせていただきたいと思います。

【矢板委員】

全国的に見て、矢板と同じような場所は少なからずあると思います。その中には、人口増加とか企業誘致とかの成功例や失敗例を調べ良い例を参考にするのもよいのではないのでしょうか。

【市長】

確かに、少子高齢社会・人口減少というのは、全国の自治体が多かれ少なかれ抱えている問題であると思います。周辺の市町と比較となると、役所は往々にして塩谷地区の2市2町ですとか、県北の5市4町であるとか、教育委員会でいうと塩谷南那須教育事務所管内の3市3町の中とか、ご近所とばかり比べるわけですけど、全国的な先進事例であったり、時には失敗事例であったり、そういうところもよく調査研究しながら、施策を推進しなければならないと思います。

他には何かご意見はございますか。

今回の議題、総合戦略の実現に向けた教育施策との連携についてというテーマで、皆様方がご意見をいただいてまいりました。いただいた内容につきましては、整理させていただいて、教育委員会・市長部局双方の施策に反映できるよう、そして連携した取り組みがよりしっかりとしたものになるよう進めてまいりたいと考えております。

それでは、議題（1）総合戦略の実現に向けた教育施策との連携についてはこれまでとさせていただきます。議題（2）その他について、事務局から何かありますか。

【総合政策課長】

総合教育会議の今後の開催方法についてお諮りいたします。

これまで、年2回開催しておりましたが、来年度から年1回とさせていただきたいと思っております。なお、開催時期につきましては、10月ごろを予定しております。

【市長】

ただ今、会議の開催方法について説明がありました、みなさまよろしいでしょうか。

（了承の声）

ありがとうございました。みなさまから何かございますか。

それでは、本日予定させていただいた議題は以上で終了とさせていただきます。委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。それでは、進行をお戻しさせていただきます。

4 閉会

【総合政策課長】

それでは、ありがとうございました。本日の会議結果につきましては会議録を作成いたしまして、後日、市のホームページに掲載させていただきます、よろしくお願ひします。

以上をもちまして、平成29年度第2回矢板市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会 16:17

